

会報 96号

発行 一般社団法人静岡県介護福祉士会

Bon くらーじゅ



(フランス語でがんばってね。いい働きをしてねの意)



介護の学会2022 ハイブリッド形式で実施

テーマ「災害やコロナ禍において介護福祉士はどう取り組むべきか」

開催日／12月18日(日) 時間／13:30~16:30

コロナ感染が続く厳しい状況が強いられる介護福祉現場、加えて多くの自然災害が発生する昨今、「災害やコロナ禍において介護福祉士はどう取り組むべきか」をテーマにサテライト4会場を設けてのハイブリッド形式で、総勢90名が参加。研究・事例報告のあと、グループに分かれての交流会、情報共有のため最後は全体会で締めくくった。

「非日常における日常生活の維持」

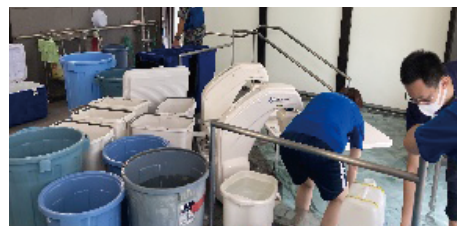
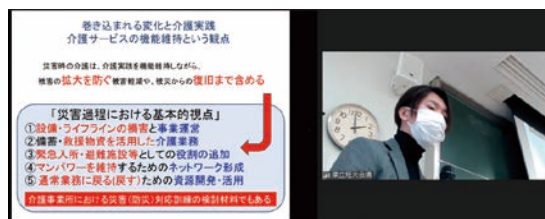
近年、温暖化による影響なのか地震以外の自然災害が多発している。令和3年7月の熱海の土砂災害、令和4年9月台風15号による静岡市内の水害など、新型コロナウイルス感染が一向に収束しないなか、多くの住民が避難を余儀なくされ現在も続いている。今回の介護の学会2022は、標記のテーマで研究報告と事例報告が2つ行われた。

研究報告として静岡県立大学短期学部 鈴木俊文准教授から「災害時の介護 巻き込まれる5つの変化」と題し、避難行動支援のポイントと課題、災害時の介護現場における日常生活の変化として①ライフラインが途絶えた時 食事や排せつ、入浴、暖房、冷房など日常生活上の介護内容の機能維持をどうするか ②救援物資が活用できなかった時 キザミ食、ミキサー食の方に非常食をどう対応するか ③通常業務の維持に加え、福祉避難所としての役割 ④施設間、地域でのネットワーク 近隣広域との連携医療、福祉、施設設備の支援連携 ⑤いつ戻る?通常時、平常時 心身への負担への対応の5つが示された。

また、災害事例報告として、施設の立場から特別養護老人ホーム白扇閣 良知由浩介護長より「台風15号災害における対応」についての発表が行われた。まさしく、災害時の介護現場と日常生活の変化における対応が写実的であった。静岡市社会福祉協議会清水地区福祉推進センター 村松千春センター長からは「被災後の地域でなにが起こっているか」と題して、災害ボランティアセンターの役割や災害直後から時間の経過とともにニーズと活動の変化、課題として潜在化するニーズの把握などがあることが示された。その後テーマをグループ毎選択し、交流会を行った。今回県立大の学生の参加もありそれぞれの立場で出来ること、取り組んでいきたいことなど活発な意見交換が行われた。

介護福祉士とは、日常生活を支援する専門職である。日常生活の支援は24時間365日絶間なく続くものであるからこそ、非日常的な災害時において何が出来るか改めて考えていかなければならない。

駿東・田方ブロック 宇佐美 真澄



▶▶▶「介護の学舎」に勉（まなぶ）◀◀◀

平成・令和と度重なる災害に見舞われ多くの悲しみを経験してきました。しかし、それは実体験ではなく、どこか別の次元で起きているような錯覚を起こすものでした。テレビから流れてくる被災の様子も、現実なのかドラマなのか怖いと感じながらも不確かな気持ちでした。

そんな私が現実を受け止めたのは、災害ボランティアとして現地に赴いたときでした。介護福祉士として自分は何ができるか、きっと力になれると信じて参加しましたが、実際は言われるままに動いただけという感じでした。今回の学舎の中で、はっきりわかったことがあります。机上の考えはそれに過ぎず、何も準備とはならないと。研修報告・事例報告、交流会でそれが明確に出てきました。数々の写真や現地の声は、自職場や地域で何を準備すべきなのか、何を周知していくべきなのかが見えてきたように思いました。

特に強く印象に残ったものは、皆さんが災害の怖さを一番感じたであろう「東日本大震災」を経験された篠崎先生の鬼気迫る話でした。自衛隊によって助けられた命を繋ぐために食事を介助しているのが、素人のボランティアさんたちだったことに、介護福祉士の私たちは何をやっていたのでしょうか。身近なこともしっかり災害に向けて固めていかなければいけません、介護福祉士として出来る事は何か、改めて考え行動していく時が来ているとこの研修で勉（まなぶ）ことが出来ました。

貴重なお話を多くの時間を割いてご準備いただいたことに心から感謝いたします。今回の学びを必ず伝え、介護福祉士としての責任を果たしていきたいと強く心に留めました。

介護の学舎委員長 村松 正広

新年度に向けて想うこと



桜の開花に心躍る季節、年度末を迎え、時の早さに驚く日々です。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた年でしたが、会員の皆様のご協力で、介護の実践現場での活躍を支える歩みを進める一年となりました。いつの時代も介護現場は“人とのつながり”を励みに頑張ってきました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大により介護現場はこれまでに経験したことのない困難な状況が続くことになりました。迷いや葛藤・不安で、リスクを顧みず闘い続ける先の見えない中、介護の話をためらうような日々、不本意な言葉かけも多かったことと思います。「利用者さんと歌わないでください」「利用者さんと距離を置いてください」「利用者さんと握手をしないでください」皆さまが耐えることで介護現場は守られています。5月からの5類感染症の認定により、私たちは柔軟に対応していくことが求められることでしょう。

さて、静岡県介護福祉士会は、令和5年度設立30周年を迎えます。当会の理念「良質な介護を提供するための自己研鑽」「介護福祉士と介護に携わる人たちの環境改善に務める」ことに則って、時代の変化と共に変えるべきことも多くあるはずです。次年度は変えるべき点、加える点を丁寧に見直しつつも「情報交換の場や仲間が集う場」「様々な介護実践の場に必要な自己研鑽の機会」として、知識と技術を身につけるための自主研修の提供を行っていきます。また、日本介護福祉士会主催の基本研修、ファーストステップ研修、認定介護福祉士養成研修の生涯研修体系に沿った研修も継続します。引き続き、日本介護福祉士会との連携を維持するためのパートナー協定契約については、1月に代議員、理事対象に説明会を開催したところです。今後、理事会を経て、改めて皆さまに詳細を伝えていくところです。

新年度も静岡県介護福祉士会が一丸となって会員の皆様をはじめ、関係団体等との連携を大切に、介護福祉士と介護に携わる人たちがこれまで走り続けてきた原動力を保てるよう、邁進する所存でございますので、変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

会 長 水野 公智

災害支援委員会

第2回 災害フォーラムオンライン研修にて開催

開催日／令和4年10月30日(日) 時間／10:00～12:00

テーマ「災害発生から事業所の復興（事業再開）を通して学ぶこと」

～私たちに必要な平時の備えとは～



社会福祉法人成仁会 理事長 山崎様



株式会社トッツ 橘高様



災害フォーラムに参加して今、私たちに何ができるのだろうか？何を準備しておけばいいのだろうか？を改めて考えさせられる研修となりました。

社会福祉法人成仁会理事長の山崎様(岩手)より、東日本大震災で被災された時の施設でのお話、また株式会社トッツの橘高様(広島県)からは西日本豪雨災害で土砂災害にあわれた方の体験を聞きました。災害でライフラインが寸断されてしまう事の想定での訓練はいろいろと行われていましたが、いざ被災してライフラインが使えなくなると訓練での想定を遥かに上回る事態であったとのこと。

静岡でも8月の豪雨により水道が破損し、長い時間水が出なかった地域がありました。普段何気なく使っている飲用水が蛇口からでなくなった時、「水のありがたみがわかった」と口をそろえておっしゃっていた被災者のみなさんが目に浮かびます。山崎様のお話の中で、停電により、エアーマットや吸引機等医療機器、保温器、洗濯機が使えなくなった時の非常事態に対し、緊急の対応(対策)などのお話はとても参考になるものでした。

私事になりますが、2011年におきた東日本大震災の後、年に数回ずつ陸前高田に傾聴ボランティアに通っていました。被災直後の道中は、使えなくなった車や家の残骸が山積みされていたり、海から遠いはずなのに大きなタンカーが流されていたりして唖然としました。通っていくうちに少しずつ整備され、外面では復興されていくところが見えていましたが施設の中は、被災された方々や入居者の対応でとても大変だったことを知り、ひとつひとつの家屋の中では復興には至っていなかったのだと知りました。

平時の訓練や備蓄の問題だけではなく、ライフラインが止まった時に何が使えなくなるのか？何を準備しなければいけないのかなど一歩踏み込んだ準備が必要になってきます。私は今、静岡県介護福祉士会災害支援委員会に入り、研修の計画や災害支援のお手伝いに入ったりしています。災害ボランティアというと必ずといっていいほど皆さんは「現地に行かないから」と言われます。現地に行くことだけがお手伝いではないという事を皆さんに伝えていきます。物資集めや情報収集、連絡のお手伝い等々どんなことでもお手伝いできるという事、どんな対応もすると言う事が必要だと思っています。訓練や平時の情報収集、各種団体等の横のつながりが重要だと強く感じ、災害時の備えについて深く自分に問いかける時間になりました。

災害支援委員 中東遠ブロック 杉本 洋子

参考になった内容を参加者からお聞きしました



- 実際に被災を経験した施設でないとわかり得ない貴重な話を聞き、水害時の避難経路や備蓄品について、又被害を想定しての利用者様への事前対応の重要性。
 - ライフライン停止時の衛星電話。ガソリンを入れるための緊急カードについて。
 - 行政や制度などもわかりやすく説明いただけたこと。
 - 法人・事業所が協力して避難対応をすること。常に地域と連携を取っておくこと。避難できない、また災害を認識できない高齢者がいることを理解しておくこと。
 - 各事業所の特性に合わせた避難計画の策定の大切さ。
 - まず動いて、こちらが行政を動かすぐらいの意気込みで取り組む姿勢。
- 他にも多くの感想をいただきました。ご参加いただいたみなさんありがとうございました。



ブロック活動

静岡市介護福祉士会 ブロック活動は独自路線で楽しく始動！

令和4年度より静岡市のブロック長として任命を受け、ブロックを盛り上げるため、理事や代議員、事務局にも相談しながら試行錯誤しておりました。研修や交流会を企画してもチラシや会のHPだけの周知だけでは集まらないことに気づき、まずは理事、代議員、自職場の職員・会員、介護に携わる友人・知人に声をかけ、グループラインを作りました。負担にならないようZoomミーティングにて夜7:00から1時間程度と決め、難しいテーマではなく、第1弾は好きなスイーツやお店紹介、第2弾は和・洋・中の美味しい麺のお店を紹介していただく交流会を企画しました。参加者に訪問美容師さんや養成校の学生さん、そして先生、更にさらにケアフェスタでも総合司会をされたあのフリーアナウンサー長谷川玲子さんも参加してくださり、食レポのようなプレゼンテーションは流石で、とても楽しく有意義な情報も聞けました。

介護からほど遠いテーマではありましたが、美味しい情報を共有していくうちに気持ちもほぐれ、交流会を通じていろんな情報を共有できたと参加者からも大変好評でした。次年度もユーモアを交えながら現場や介護職員のニーズに添う研修を企画していきたいと思っています。現在は、LINEの登録について仲間からの招待登録で行っています。静岡市の介護職員の輪を広げていくために、ぜひぜひお声掛けをお願いします。

静岡市介護福祉士会ブロック長 山田 英和



フンポイント介護

～排泄介護のポイント～

なぜ人は排泄をするのでしょうか？あなたはこの問いにすぐに答えることができますか？

私たちの身体は多数の細胞で構成されており、血液によって届けられた栄養分を燃焼させ、エネルギー源にしています。この時、すべての栄養分が完全に燃え尽きるわけではなく、いわば燃えカスが生じます。これが老廃物であり、それを身体から排出する行為が排泄となります。この老廃物が身体の中に溜まりすぎると、身体に不調をきたし、尿毒症などの様々な病気を引き起こす原因となるため、人は生きている限り排泄をしないてはならないのです。介護福祉士は人の生活を支援する職業であるため、「人」についての知識が必要な専門職です。このような質問に対して根拠を示して答える必要があります。

利用者様の自立した生活を目指すにあたり、排泄のコントロールは不可欠なものです。食事や入浴と違って排泄は「待った」がきかない生理現象であり、排泄の失敗は利用者様の生活意欲に大きなダメージを与える可能性があります。大前提として、最もプライバシーに配慮が必要な介護であることを、職員全員で共有されていることが求められます。

それを踏まえたうえで 排泄の介護をするにあたって介護過程を展開してみましょう。

1. 利用者様の排泄行為で何が出来て、出来ないのか、
排泄パターンなどを正しく知る為の情報収集
2. 情報をふまえて、どのような課題が挙がるのか分析
3. 分析の結果、利用者様の課題解決のために必要な排泄介護の介護計画を立案
4. 介護計画を職員と共有し、定められた期間実施
5. 実施した内容の結果を分析して、評価
6. 再び情報収集に戻る



利用者様の介護計画は、生活全般ではなく、食事や排泄などより細かいカテゴリで行うことで、評価もしやすくなります。排泄に対する課題を解決し、利用者様と楽しい時間を創り出すことができる介護福祉士になりましょう。

志太・榛原ブロック 大橋 一良

知ってるようで知らない

介護・福祉サービス

地域包括支援センターとは？

地域で暮らす高齢者とその家族の皆さんの困りごとや相談に対応する総合相談窓口です。



適切な介護予防のために

介護予防のための教室や事業対象者・要支援と認定された方の介護予防サービスのケアプランを作成します。住民主体による高齢者の健康づくりをお手伝いします。

地域包括支援センター

様々な問題を解決するために

介護以外にも高齢者に関する様々な相談を受け、必要なサービスにつなぎます。

高齢者のみなさんの権利擁護のために

介護予防のための教室や事業対象者・要支援と認定された方の介護予防サービスのケアプランを作成します。住民主体による高齢者の健康づくりをお手伝いします。

いつでも必要なサービスが提供されるために

ケアマネジャーさんの指導など後方支援を行ったり、地域・医療・福祉の各種団体とのネットワークを作り、高齢者の皆さんが住みやすい地域づくりのお手伝いをします。

福祉レクリエーション

ニュースポーツ 「スカットボール」

マットの上にスカット台を乗せて、ボールをスタートラインからスティックで打って、スカット台の得点穴に入れて点数を競うゲームです。

■ 人 数

個人戦（1人10個の持ち球となる）または、団体戦（10人まで）

■ 進め方

①ジャンケンによって先攻、後攻を決める。

②先攻は赤球、後攻は白球を使用する。

③赤球、白球交互に打ち、スカット台の得点を合計し記録する。

④持ち球5個全部が入った場合は、パーフェクトチャンスとして、

さらに1回分（球5個）打つことができ、得点に加算される。5回戦まで行い合計点で勝敗を決める。

⑤同点の場合は、代表者1名による決定戦を行う。

ダンボールなどで手作りで斜めにしたスカット台を作成し、身近にあるボールを活用して、スティックで打つだけでなく、手で転がしたり、足で蹴ったりして楽しむことができ、ボールが得点穴に入るとスカットします。

駿東・田方ブロック 倉島 修



新入会員の加入状況

(会員番号2205176～2205178)

(令和4年8月1日～令和5年2月10日現在)12名

駿東・田形ブロック	1名	熱海・伊東ブロック	1名	静岡市介護福祉士会	4名
志太・榛原ブロック	5名	中東遠ブロック	1名		



身体拘束廃止フォーラム収録に参加して

高口先生の講義は一昨年来であり、楽しみにしていました！現在、「元気になる介護研究所」所長として講演活動を中心に現場の出来事を事例として挙げ、わかりやすい講義を展開されています。

今年の身体拘束廃止フォーラムも昨年同様収録し、YouTube配信されました。高口先生には基調講演として「身体拘束は廃止できます」「人員基準と身体拘束」の2テーマで講義となりました。介護経験のない介護職員に対する身体拘束についての理解は、身体拘束が始まる時の4つのポイントをわかりやすく、先生自身が耐えながら対応したエピソードに先生の熱量を感じました。身体拘束をしないポイントとして、本当に自分がやりたいケアを考えているか、ケアの誇りと自信をもっているか、今一度振り返る機会となったことと思います。利用者さんで印象的だったのは、経鼻経管栄養の方が「口から食べたい」という自分の意志で、徐々に食事方法を切り替え、念願の食事ができ元気になる事例。その満面の笑みは忘れられません。後半は身体拘束廃止推進員養成研修から選ばれました4名の方々の実践報告です。現場での取り組みはコロナ禍で苦慮された点が多くあったと思いますが、どの報告も職場でのチームワークを発揮された内容でした。

“身体拘束を安易にしない”という意識の強さが重要、ゆとりを持ち注意しあえる職員の関係作りの大切さを再確認できたフォーラムでした。

事務局



《災害支援委員会》登録ボランティアを募集します！

静岡県介護福祉士会災害支援委員会では、昨今の大規模な自然災害に備えて介護ボランティア派遣、ボランティア育成などを行っています。

登録ボランティアは、被災地の施設や避難場所に赴いて介護やその場の活動のお手伝いだけでなく、災害支援委員会活動や研修参加で災害の備えについての知識を身に付けていただきご自身ができる範囲の中で、お手伝いをしていただける方です。一人でも多くの方に災害について関心を持っていただけたらと思っています。

皆様のご参加をお待ちしています。

災害支援委員長 長倉 浩之



事務局より

令和5年度一般社団法人静岡県介護福祉士会 定時総会並びに記念講演会

■総 会／5月21日（土）10：00～12：00

■記念講演／14：00～15：30

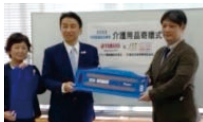
■講 師／丹野 智文氏（たんの ともふみ）

■テ ー マ／「自分で決めて自分で動く」

詳しくはチラシを参照ください。



このほど静岡県介護福祉士会の賛助会員（施設）へ福祉用品が贈られました。創業135周年記念の朝日生命&高機能車椅子を作製するヤマハ発動機のコラボによる社会貢献企画に感謝！地元企業との連携も必要ですね。



会員更新のお願い

- ①会費の金融機関の自動振替は5月26日（金）となりますので通帳残高の確認をお願いします。
- ②継続会員様で口座引落をご希望の方、住所・氏名・電話番号・勤務先などが変わられた方は事務局までご連絡ください。
- ③会費の領収書が必要な場合もご連絡ください。

令和5年度より下記会費となります。

①日本介護福祉士会 5,500円

②静岡県介護福祉士会 3,000円

①+②=8,500円となります。

新入会の方につきましては1年目のみ入会金3,000円がプラスされますのでご理解ください。



告知

『介護の学舎2023』
開催決定！

令和5年9月10日（日）東部会場にて
ハイブリッド形式で実施予定！

仮テーマ 介護現場に活力を！
「介護の未来 それぞれの視点」
早くも実行委員会始動中！

編集後記

今年度も駆け足で過ぎようとしています。気が付けばかれこれ2年以上、新型コロナウイルス感染症に振り回され、閉塞感を抱えている人も多いのではないのでしょうか。介護の学舎では、学生さんとの交流もありとても新鮮でした。活動への理解を深め、人と人とのつながりをひろげながら、介護の仕事が楽しいなと思って頂けると嬉しく思います。いつか肩の荷を下ろして、ほっとしたいものです。 広報委員長 村松 正広